

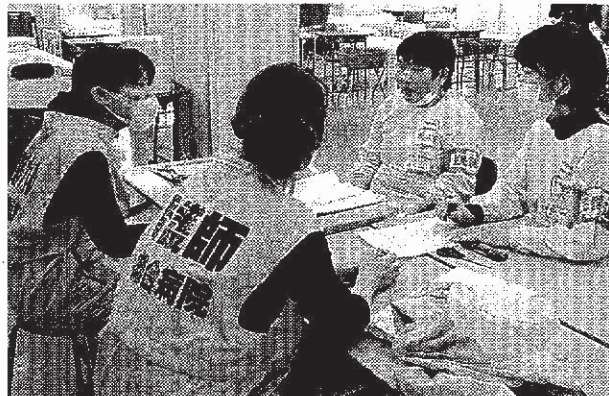
東日本大震災で被災した仙台市の病院や避難所で医療支援に取り組んでいる東神戸病院(神戸市東灘区)、東神戸診療所(同市中央区)などの看護師らが、神戸市東灘区で報告集会を開いた。避難所では、介護の必要な高齢者や障害者が体調を悪化させるケースが多いという。「医療に加えて介護の充実や『震災関連死』を防ぐことが重要になる」と指摘、継続的に支援していくことを確認した。

同病院などは、所属する全日本民主医療機関連合会(民医連)の要請を受け、13日から仙台市太白区の長町病院に看護師

# 関連死防止へ継続的に活動

## 被災地の病院、避難所入り

東神戸病院などの看護師ら



長町病院で現地スタッフと転院患者の受け入れについて話し合う医療支援チームの看護師(右の2人)＝仙台市太白区(特定医療法人神戸健康共和会提供)

や作業療法士、事務職員 け入れを手伝い、同病院ら計8人を順次派遣。他の近くで避難所となつて病院からの転院患者の受ける市立長町小学校の保

健室では避難者の健康をチェックして、20日に帰路に就いた。

同小には一時千人近くが身を寄せていたが、当初は特に食料が不足し、夕食が配られなかったこともあった。毛布の数や暖房も不十分で、避難者が飢えと寒さを我慢する状況。避難所運営を担うボランティアの疲労も目立ったという。

東神戸病院の染矢百合(看護師)らは「最初は高齢者の慢性疾患への対応や安心できる居場所づくり、つらい経験を分かち合つ心のケアなどが大切になる」と話した。

既に20日からは別のチームが被災地入りして活動。その後もほぼ1週間ごとに交代でチームを派遣し、支援を継続していく。(金井恒幸)

態やぼつこう炎になる人もいた。食料不足で栄養状態が悪くなっている人もいたほか、子どもがアトピー性皮膚炎による湿疹やせんでく発作を悪化させることもあった。